大中PRIDE

大津町立大津中学校
生徒指導通信　２号

令和５年４月２０日（木）
文責：岡村　康平

見えない何かを磨くこと

第１号でもお伝えしましたが、大津中学校には『大中ブランド』と呼ばれるものがあります。それは、**「傾聴・挨拶・時間・掃除」**の４つの柱です。『大中ブランド』はこれまで先輩たちがより良い学校を築き上げるためにしっかりと守り、その伝統が脈々と受け継がれてきました。

４月の生活目標は**『明るく元気に挨拶しよう』**です。大津中生は廊下ですれ違ったり、登下校中に地域の方にお会いしたりするときも自ら進んで挨拶をすることができます。また、これまでできていなかった生徒もできるようになろうという姿勢が見られます。このような大津中生の姿はとても素晴らしいです。

先日の朝、私が朝から交通指導をしていたときの出来事です。ある２年生の数名の生徒が、私を**見た瞬間に立ち止まって、頭を下げ大きな声で挨拶**をしてくれました。さらに、とても明るい笑顔だったのです。その瞬間、私自身もとても明るくなり、今日も一日頑張ろうという気持ちになりました。また、その数名の生徒は去年から素晴らしい挨拶を続けてくれていた生徒でした。**「生徒の声や笑顔は学校を盛り上げる」**ということを再認識させてくれました。

「学校に来られた方々に笑顔で元気な声で挨拶する」「みんなの前で元気な返事をする」「やらなくてはならないことを自分が率先してやる」「誰かに見られていなくても掃除を黙々と頑張る」…。何事も自分ができていないことを**始めるには「勇気」が必要**です。しかし、**「勇気が必要なのは最初だけ」**だと思います。勇気を出して一歩踏み出せば、次からは『当たり前』にできるようになります。『当たり前のことを当たり前にやる』ことができれば、さらに人として成長することができるはずです。

３月に行われた野球の世界大会ＷＢＣ。日本は１４年ぶりに優勝し、世界一になりました。とある記事にこのようなことが書かれていました。『優勝した日本の**“ゴミ一つないベンチ”**に世界が注目』。その記事には写真も添付されており、本当に綺麗な日本のベンチがそこにはありました。大谷翔平選手はグラウンドにゴミが落ちていたら、サッと拾いポケットの中に入れる姿がよくテレビで紹介されています。また、この**“ゴミ一つないベンチ”**は野球の日本代表だけでなく、サッカーの日本代表の選手たちも『当たり前』のように行っています。**『一流はどこから見ても一流』**という言葉がありますが、まさにその通りだと思いました。

では、この選手たちは人から見られているから、ゴミ拾いを行うのでしょうか。私は使った場所を綺麗にするということが選手たちの中では『当たり前』になっていると思います。しかし、全員が初めからそうだったわけではないと思います。

「勇気を出して実践する」→「周りの人からどう思われようが、決めたことをやり続ける」

そうすることでいつの間にか『当たり前』になって、その人の力になっているのかもしれません。

心の大きさや広さは、１０倍、１００倍どころではないと思います。何千倍、何万倍にもなると思います。だからこそ、**毎日の生活の中で一瞬一瞬に勇気を出して、『素直さ』を磨いて**ほしいと思います。

人が幸せになる最大の武器は『素直さ』

『素直さ』とは、自分の心を開いて、物事を観て、心を開いて人の話を聴くことだと思います。これまで私が出会ってきた人から言えることは、傾聴・挨拶・時間・掃除を誰もが感動するくらいできる人は、例外なく「心を開いて、物事を観たり、聴いたりする」ことができる人です。

そんな人は、**周りの人がほっとくはずはなく**、周りの人から色々なことを教えてもらい、応援してもらい、着実に実行して、成長していくものです。

『素直』…。

見えない何かであるが、見えないものほど大切に磨いてほしい

大中生と共に私も見えないものを大切に磨いていきたいと思います。